

テーマ別評価



「新世紀未来創造プロジェクト」

公益財団法人JKA

1. 「新世紀未来創造プロジェクト」とは

「新世紀未来創造プロジェクト」は、平成23年度補助事業から新設された補助項目である。

「新世紀未来創造プロジェクト」創設の目的

社会的にいろいろなことを勉強・体験し、日本の将来を担う小・中・高生に対して、チャレンジ精神を創出すること

補助の対象となる活動

H23年度～：小学生(5・6年)・中学生・高校生の健全育成に資する交流・研究活動



H24年度～：小学生・中学生・高校生の健全育成に資する交流・研究活動



H27年度～：小学生・中学生・高校生を対象として、地域の『ひと・もの・こと』を活かした活動、自己表現力を高め、自立心を養う活動や社会福祉活動など、個性豊かな次代を担う青少年の育成に資する活動

活動の内容	地域ふれあい交流活動	学校、クラス、クラブの生徒が中心となって、その地域住民などと交流し、相互に理解を深めるために取組む活動
	実践的研究を通じた人間力育成支援活動	学校、クラス、クラブの生徒が創造力、観察力、行動力を高めるため、独自の視点で新たな教育的価値、チャレンジ精神を創出する実践的・先駆的な研究に取組む活動
	社会福祉活動 ※ 平成27年度から追加	子どもが参加・体験等を通じ、地域共生型社会の実現を目指す力を身につける社会福祉活動

2. 現在までの補助概況

(1) 年度別補助要望・内定状況の推移(平成23年度～27年度)

(金額は千円単位)

	要望		内定	
	件数	金額	件数	金額
H23年度	28	25,228	17	15,792
H24年度	21	18,030	12	8,494
H25年度	33	28,585	13	9,241
H26年度	24	19,795	15	11,897
H27年度	36	31,915	16	15,222
合計	142	123,553	73	60,646

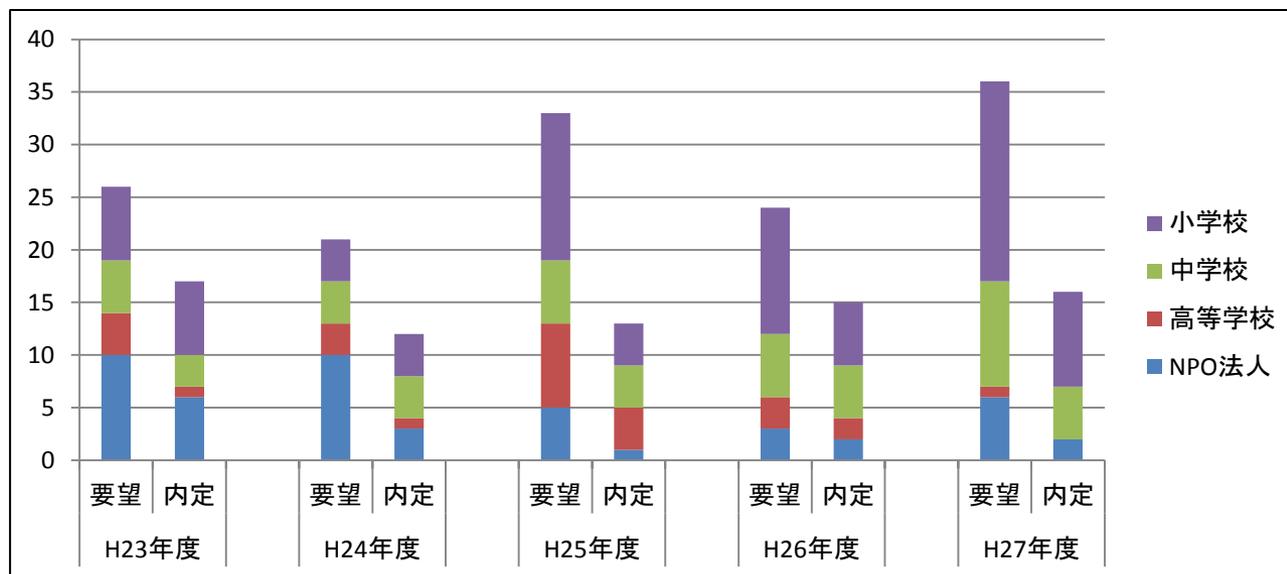
(参考) H28年度	31	27,643
---------------	----	--------

2. 現在までの補助概況

(2) 学校種類・団体別の要望・内定件数

上段: 要望件数 下段: 内定件数

学校種類 団体別	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	合計
小学校	7	4	14	12	19	56
	7	4	4	6	9	30
中学校	5	4	6	6	10	31
	3	4	4	5	5	21
高等学校	4	3	8	3	1	19
	1	1	4	2	0	8
NPO法人	10	10	5	3	6	34
	6	3	1	2	2	14



2. 現在までの補助概況

(3)実施された補助事業全体の状況

補助方針上、①地域ふれあい交流活動、②実践的研究を通じた人間力育成支援活動、③社会福祉活動の3項目に分けて募集を行っているが、実際に行われた事業はそれぞれの領域にまたがって実施されているものが多い。

○「(4)代表的な事業の実施状況」で紹介する事業の位置づけ

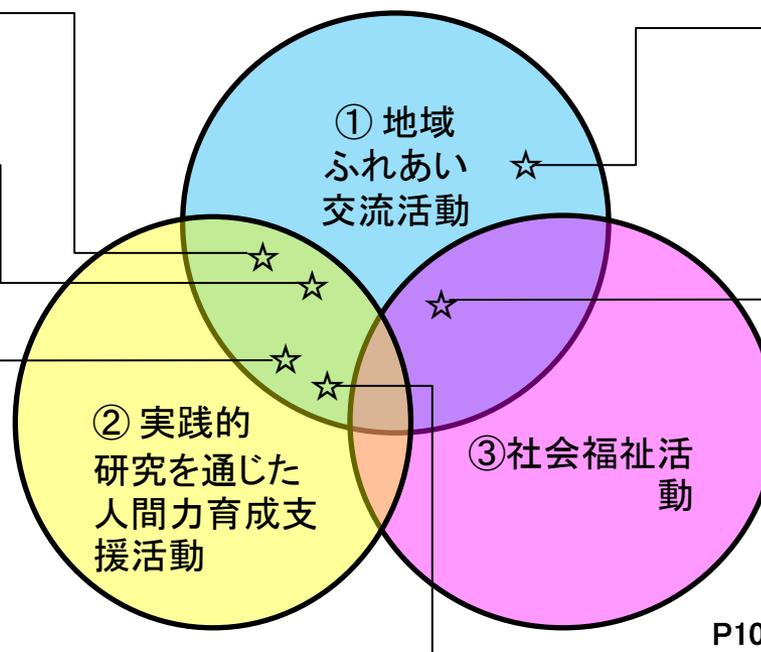
P6. 兵庫県猪名川町立楊津小学校

P9. (N)F-site

P7. 鹿児島県立加治木工業高等学校

P8. 安中市立細野小学校

P11. 日野町立桜谷小学校



P10. 富士宮市立富士宮第二中学校

2. 現在までの補助概況

(4) 代表的な事業の実施状況 ①地域ふれあい交流活動 +②実践的研究を通じた人間力育成支援活動

兵庫県猪名川町立楊津小学校（平成25年度）

「環境学習『黒めだか救出作戦』」等



<活動内容>

地域住民と共に、里山保全につながる様々な活動を通して、故郷の良さを体感できる学習活動を実施した。

黒めだかの保護・飼育活動では、水生生物調査や水質検査を実施することにより、猪名川を守る活動への意識を高めるとともに、里山整備・里山での野鳥観察等活動により、里山の環境保全の必要性を知ることができた。

- ・黒メダカ救出作戦(黒メダカ育成事業、河川の水質・生物調査)
- ・里山を守ろう(里山に生息する動植物調査、里山整備)
- ・昔の暮らしやエコ体験学習(草木染や農作業学習等)

<活動の成果・その後の効果>

地域住民と共に、様々な活動を通して故郷の良さを体感できる学習活動ができ、地域の自然を守る活動を通して愛郷心も育まれた。

環境保全学習が充実し、兵庫県知事からグリーンスクール校(環境学習を充実させている学校)として表彰された。また、JAの環境チャレンジ大会の地区大会にも参加、優秀賞を受賞し、県大会に出場した。

黒メダカの里親活動も定着しており、毎年メダカの数を増やす取り組みも継続

里山整備
下草伐採活動



水生生物調査



トンボの標本
作製



2. 現在までの補助概況

(4) 代表的な事業の実施状況 ①地域ふれあい交流活動 +②実践的研究を通じた人間力育成支援活動

鹿児島県立加治木工業高等学校（平成24,25,26年度） 「地元商工会との連携活動」



<活動内容>

地元の始良市商工会と連携して、高校生の力を利用した地域貢献や、地元技術者と高校生との技術継承を目的として実施した。

地域貢献では、空き店舗を活用した自由工作教室の開催や、「かもだ思い通り」の行事に出店し、生徒製作作品の配布等を行った。

地元技術者との技術継承では、電気科が空き店舗の空調設置を行い、実践的な技術指導により、生徒が技術を学ぶだけでなく、将来の進路を考えることに繋がる有意義な内容であった。

- ・地元商工会主催「百縁市」「師走市」「初市」に出店
- ・自由工作教室開催・加治木駅前花壇整備
- ・地元技術者との技術継承事業「電気科:店舗改装・外灯設置作業・空調設置作業」「土木科:歩道整備」「土木科:小・中学校出前補修」
- ・美術部による「かもだ思い通り応援フラッグ」作成
- ・「始良市まちづくりフォーラム」出展
- ・生徒会、美術部による「かじきまんじゅうMAP」作成
- ・始良市主催「あいらん家まるごと博覧会」参加

<活動の成果・その後の効果>

「かもだ思い通り」の活性化策の1つである「百縁市」や「初市」での出店では、高校生の元気な呼び声が響き渡り、微力ながら商店街の活気につなげることができた。また、技術継承を通じて、電気科・土木科の生徒は、実践的な技術力を身につけることができた。それが形となって、各種電気工事や地元小中学校の出前補修を行い、地域に貢献することができた。

加治木駅前の花壇整備や、自由工作教室等の活動は規模を見直し継続

実習作品等の提供や販売



環境美化委員による加治木駅前花壇整備



自由工作教室



RING! RING!プロジェクトで動画を公開中⇒<http://ringring-keirin.jp/about/2014.hojo.09.html>

2. 現在までの補助概況

(4) 代表的な事業の実施状況 ①地域ふれあい交流活動 +③社会福祉活動

安中市立細野小学校（平成23年度）

「地域ふれあい和太鼓演奏活動」



<活動内容>

6年生全員が西上州地域において伝承されている和太鼓の演目を地域の和太鼓団体、妙義「雷太鼓」の指導により習得し、伝統芸能の継承をしていくとともに、校内学習発表会や、特別養護老人ホーム等で演奏を披露することで、地域と交流を行った。

- ・「細野ふるさと祭り」の敬老会や「ろうばい祭り」で演奏披露
- ・学習発表会で演奏披露
- ・特別養護老人ホーム訪問・演奏披露
- ・6年生の卒業前に5年生への引継ぎ練習実施

<活動の成果・その後の効果>

平成24年度から5,6年生の総合的な学習の時間において取り組むようにした結果、25年3月には6年生は2曲演奏できるようになり、5年生も1曲は演奏できるようになった。

「雷太鼓」に入り大人と一緒に練習するようになった児童もいる。卒業生が参加した練習もあった。また、ろうばい祭りには、子どもも保護者も以前より多く参加するようになった。このように、「地域ふれあい和太鼓演奏活動」により、地域の人との交流の機会が生まれ、地域の人とのつながりが深くなっている。そして、大勢の前での演奏が、確実に子どもたちに自己有用感と自信を持たせている。地域を愛して地域のために動いている大人（特に高齢者）との交流機会が増えたことにより、大人たちの良い面を自然に真似て、この細野という地域に愛着をもって地域貢献していく子どもたちが育っている。

学校の特徴の1つとし、「細野小絆太鼓」として活動を継続

妙義「雷太鼓」の指導による練習



細野ふるさと祭り（敬老会）での演奏



特別養護老人ホーム訪問



2. 現在までの補助概況

(4) 代表的な事業の実施状況 ① 地域ふれあい交流活動

(N)F-site (平成23年度)

「高校生による地域史実朗読劇プロジェクト」



<活動内容>

富山県内高校生(放送部5校延べ177名)が参加、史跡を見学し地域の
人々から話を聞くなど交流しながら、地域の史実に基づいてオリジナ
ルの朗読劇を制作し、広く一般の人たちを対象に、様々な世代・職種
の方々と共に上演、成果を発表した。当団体がそれら活動の核となり、
専門家らによる各種ワークショップを実施し、地域を巻き込み、「表現」
や「史実」の重要性を青少年らと共に学んだ。

- ・テーマを選定⇒「倶利伽羅の合戦(義仲と巴)」
- ・地域の関係者や研究者等への取材
- ・オリジナル脚本の制作
- ・朗読ワークショップ開催
- ・一般へ朗読劇を上演、交流

<活動の成果・その後の効果>

発表会を開催し、その模様を放送するという目標を掲げたことで、参加した
生徒は、地域の専門家からの歴史講座や朗読指導を受けながら、高いモ
チベーションを維持して事業に参加することができた。高校生と、学校関係
者や、自団体メンバー、地元メディア、県・市担当者や義仲巴研究会などの
各団体と連携することができ、相互に協働できる関係性を築くことで、地域
の大人と子供に「学びあい、育ちあう」意識が芽生えた。
好評により、翌年に再上演した。

朗読・基礎



脚本・企画



RING! RING!プロジェクトで動画を公開中
⇒<http://ringring-keirin.jp/about/F-site.html>

2. 現在までの補助概況

(4) 代表的な事業の実施状況

②実践的研究を通じた人間力育成支援活動

+①地域ふれあい交流活動

富士宮市立富士宮第二中学校（平成24年度）

「特別支援学級生徒の活動」



<活動内容>

富士宮市内5校の特別支援学級に広がった「福ろう製作所」の活動や制作物の実演販売などの校外活動をより充実させるため、テントや長テーブルなどを整備し、「福ろう製作所」の活動を行った。

- ・合同学習会（前年度の「福ろう製作所」の取り組みについて発表）
- ・作業実習（疑似会社での仕事を体験：作製、販売、市場調査等実施）
- ・郊外活動（施設見学、作業体験等）
- ・夢ステージ（福祉祭りに参加し、歌や詩の群読を発表、作製品の販売）
- ・合同学習会（当年度の取り組みについて発表、交流会等）

<活動の成果・その後の効果>

テント等を整備することにより、天候に関係なく野外での実演販売や製品の陳列をすることができ、設置や撤収も自分たちの活動として捉えることができた。また、生徒たちの仕事に対する技術や気持ちなども高めることができた。

働くとはどういうことであるのかを体験的に学び、自らの良さや、可能性、課題を見つける事ができた。

豊かな生き方を目指していこうとする心構えや態度を育てることができた。

様々な人との関わりやふれあいから、時と場に応じた言葉遣いや、マナーなどの基本の定着を図るとともに、豊かな人間関係を築きながらコミュニケーション能力を伸ばすことに有効であった。

「福ろう製作所」の活動は継続

集中作業実習



実演販売

野外ステージでの販売活動



2. 現在までの補助概況

(4) 代表的な事業の実施状況

②実践的研究を通じた人間力育成支援活動

＋①地域ふれあい交流活動

日野町立桜谷小学校（平成23,25,26年度）

「サイエンス教室の実施」



<活動内容>

近年、子供たちの理科離れ、科学離れが進み科学リテラシーが希薄な社会が危惧されている中、勉学に対する目的をつかめず学習意欲減退の子どもたちに、科学の面白さのみならずコミュニケーションの重要性を知らしめる機会を提供するため、自律型ロボットに、サッカー、ライトレース、仮想荷物の運搬をさせるためのプログラミング技術の習得、ロボットの修理、機能の追加等を、子供たちが自ら実践する教室を開き、学校では経験できない科学実験、観察を行った。

- ・ロボット教室実施
- ・ロボット体験教室実施
- ・滋賀県主催「しがこども体験教室」参加
- ・ロボット練習会実施
- ・科学実験教室実施

<活動の成果・その後の効果>

日々の活動の結果、平成26年度は3チームがRCJJ滋賀ノード大会にエントリーし、1チームが京滋奈ブロック大会へ進んだ。桜谷小学校のみならず、町内、県内の子供たちにも参加の機会を提供しており、教室の参加者も増えている。



平成26年度
第3回教室



平成26年度
第7回教室



科学実験教室

サイエンス教室の活動は継続

3. 関係者の声

安中市立細野小学校 (H23年度) 「地域ふれあい和太鼓演奏活動」

- ・ 児童「中学校へ行っても和太鼓をやりたい。」「6年生に負けないようにやっていきたい。」
- ・ 訪問先の老人ホームの高齢者「元気をもらった。」(上毛新聞掲載記事より)

日野町立桜谷小学校 (H25年度) 「サイエンス教室の実施」

- ・ スタッフ「他校からの体験参加で、最初は遊び感覚で参加していたような子どもも、児童が自ら一定のルールを決めて活動を行っている教室の雰囲気の中で、自分から行動するようになり、気持ちよく活動できるように成長していることがうれしい。」

仙台市立南吉成中学校 (H26年度) 「中学生が主導する地域防災訓練、津波被害農家に弟子入り体験」

- ・ 「被災地を実際に視察して、自分の力がどの程度通用するか不安に感じた生徒が多かったが、実際に農業ボランティアを行ってからは『自分の力が人の役に立ってうれしい』と思う生徒の割合が増えた。」(生徒アンケートより)
- ・ 保護者「傷ついた人の気持ちにより添える心、人の役に立つことの大切さを、紙の上ではなく身をもって学んだと思う。」

鹿児島県立加治木工業高校 (H26年度) 「地元商工会との連携活動」

- ・ 生徒「自分たちが作った製品で喜んでもらえてうれしい。地域の役に立てて励みになった。」(南日本新聞掲載記事より)
- ・ 生徒会役員「(小学生への自由工作教室について)勉強していることに関心を持ってもらい張り合いが出た。ものを作る魅力に浸り、受け継いでもらえれば。」(南日本新聞掲載記事より)→



4. まとめ

- 補助事業の対象となる活動について、① 地域ふれあい交流活動、② 実践的研究を通じた人間力育成支援活動、③ 社会福祉活動の3つの項目に分けて要望を受け付けているが、実際の事業は複数の項目にまたがるものが多い。
- 多くの事業が、小・中・高生が新しい取り組みを始めるきっかけとなる役割を果たしており、JKAの補助事業のひとつとして、継続して補助を行っていくものとする。